



Where Culture Also Perfumes the Sacred Threshold : Commemorating
the Memorandum of Understanding with the Organization of Libraries,
Museums, and Documentation Center of Āstān Quds Razavī

令和6年度東京大学アジア研究図書館展示

文化も薫る聖なる敷居——レザー廟図書館協力覚書調印記念展示

会期：2024年12月20日（金）～2025年1月末（予定）
（会期中休館日2024年12月28日～2025年1月4日、1月18～19日）
会場：東京大学総合図書館（本郷キャンパス）
展示スペース及びオープンエリア
開室時間：平日9:00～22:30 土日祝日9:00～19:00

記念セミナー（要事前申込）
2025年1月10日（金）14:30～17:00

趣旨説明：森本一夫氏（東京大学）

講師：杉山隆一氏（京都橘大学）「イマーム・レザー廟の発展と文化活動」

会場：アジア研究図書館レクチャールーム（東京大学総合図書館4階）

セミナーの参加お申し込み
はこちらから→





(左) 十二イマーム・シーア派の聖なる人々をノアの方舟に模したもののインド・ラクナウ・森本一夫氏所蔵

(右) イラン中北部コムにおけるアルバイーン(アーシューラーから四〇日後の喪明けの追悼行事)のニコマ 平野貴大氏撮影



このたびアジア研究図書館は、イラン・イスラーム共和国北東部のマシュハドにあるアースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー図書館・博物館・文書館機構(以下、レザー廟図書館)と協力覚書を取り交わしました。アースターネ・ゴドゥス・ラザヴィーとは、直訳すれば「レザー様にちなむ聖性の敷居」の意であり、十二イマーム・シーア派の第8代イマーム、アリー・レザーの廟を指します。レザー廟図書館は、この巨大な聖者廟コンプレックスの一部を成す学術・文化機関です。

周知のように、世界のイスラーム教徒の大半は、シーア派とスンナ派の二つの宗派のどちらかに属しています。シーア派とは、共同体の指導者は預言者ムハンマドの一族——具体的にはムハンマドの娘婿であるアリーとその子孫たち——の特別な血統とカリスマを帯びた人物でなければならないと考える宗派です。それに対し、血統による特別な指導者の存在を認めず、預言者ムハンマドの慣行(スンナ)にもとづく共同体の総意を標榜するのがスンナ派です。シーア派は、アリーの子孫のなかのどの人たちが指導者——シーア派ではイマームと呼ばれます——の位を継承してきたとみなすかで諸派に分かれますが、アリーの子孫の12人を指導者として崇敬し、12代目は幽隠(お隠れ)の状態にあって終末に救世主として再臨すると信じる「十二イマーム派」がそのなかで最大の分派を形成しています。今日、十二イマーム・シーア派信徒は、イランを筆頭に、インド、パキスタン、イラク、アゼルバイジャン、レバノンなど各地に居住しています。

預言者ムハンマドの7代目の子孫にあたるアリー・レザー(西暦765-818年)は、マディーナ(メディナ;現在のサウジアラビア)に生まれ、799年に亡き父を継いでイマームとなりました。彼は、アッバース朝カリフ、マアムーンの招きによりホラーサーン地方に赴きましたが、818年にサナーバードと呼ばれた小村で没しました。

以後この地は、イマーム・レザーの「マシュハド(殉教地)」として、彼の墓廟を中心に町が形成され、拡大しました。16世紀に十二イマーム・シーア派を国教とするサファヴィー朝が成立すると、マシュハドは、巡礼地として、またシーア派信仰の拠点として急速に発展しました。現在では、マシュハドは、ラザヴィー・ホラーサーン州(レザー様のホラーサーン州の意)の州都として、首都テヘランに次ぐイラン第二の都市の地位を占めています。また、イラン国内における唯一のイマーム廟であり、年間に数千万人に及ぶ参詣者を国内外から集めるレザー廟は、寄進財によって運営されるシーア派の宗教施設として、イランの政治、経済、社会に対しても大きな影響力を及ぼしています。同時にレザー廟は、建築群それ自体や、そこに収集された美術品、書籍類、廟運営に関する歴史文書類、ここで守り伝えられてきた儀礼など、あらゆる文化を伝えてきました。今日レザー廟は、シーア派イランの象徴的な存在でもあるのです。

今回の展示では、レザー廟図書館から寄贈された資料や、歴代の為政者たちが信仰の証として建麗な建築物やそこに集う参詣者たちの写真のほか、シーア派についての理解が深まるよう、その信アーシューラーと呼ばれる行事(第3代イマーム、フサインの追悼行事)の写真や、関連するモノものも含めて展示することにしました。

本展示を通じて、学内外の多くの方々に、レザー廟図書館の資料にとどまらず、イスラームりわけシーア派の広がりとその信仰実践、イマーム信仰や廟の歴史、現代のイランなどの様々な交流の可能性に思いを馳せていただければ幸いです。

設した数々の壮
仰を特徴づける
も、イラン国外の

の多様性、と
角度から学術

東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発

部門(RASARL)



(左) イブラヒーム・スルターンのムスハフ(クルアーンの写し)の複製…アジア研究図書館所蔵

(右) タアズイヤーと呼ばれるカルバラの聖廟のミニレプリカ
インド・ラクナウ・森本一夫氏所蔵

